あの瞬間（とき）を忘れないで

桜ライン311 Sakura Line

問 政策推進課　経営戦略係　☎(83)1222

▲松田町の桜の移植作業

▲被災直後の陸前高田市庁舎前

14年後

▲４月上旬には桜が満開に（東海新報社様提供）

▲新しくなった庁舎（令和３（2021）年に完成）

平成23（２０１１）年３月11日（金）14時46分頃に三陸沖を震源とするマグニチュード９・０の巨大地震（東日本大震災）が発生し、東北地方では大きな被害を受け、14年が経ちました。

町では、震災直後から被災地支援を行い、特に岩手県陸前高田市には、当時の市長（戸羽（とば）氏）が松田町出身であったご縁もあり、町民有志や町消防団、職員などが中心となり、現地でのボランティア活動、さらにはオフロードバイクや野菜などの物資の輸送、義援金などの支援を行いました。

同年８月に陸前高田市長が著書に**「震災を忘れないために、３月11日に近いタイミングで咲く桜を植える」**という案を記したことをきっかけに、同市の青年会を中心に「桜ライン３１１（同実行委員）」が結成され、同年10月に活動が始まりました。震災を風化させないために、津波の最大到達地点に桜の木を植え、避難の目安として後世に伝えたい・残したいという思いから、10ｍ間隔で桜の木を植え、１万７０００本の桜並木を目標に現在も活動を行っています（現在の本数は２３２４本）。

著書を見た当時の松田町長（島村（しまむら）氏）が**「松田町の桜を寄贈したい」**と申し出たことで、桜ライン３１１の皆さまと、町の寄さくらの会や町商工青年会の皆さまなどで寄に咲く河津桜を現地に移植することが実現しました。

これからも東日本大震災の**〝あの瞬間（とき）〟**を忘れることなく、被災地支援を行うとともに、日頃からの町防災体制の充実を図ってまいります。

桜ライン311の詳細はこちら